

不信と不満を持っていることがわかりました。

今年の夏、アオコの異常発生で不気味に変色した霞ヶ浦の水は、水温の低下と水量の増加とともに、やや水らしい色を取り戻しましたが、しかし、来年も春を過ぎ、夏に入るところには、恐らく今年をはるかに上回る水質の悪化によって、市民生活は極度に脅かされるものと想像されます。

霞ヶ浦総合開発の美名のもとに、おし進められてきた県、国の政策には、水質保全、自然環境の保護という考えが完全に欠落しており、それが現在の霞ヶ浦の惨状を生み出した最も大きな原因であるという事は、衆目の認めるところでしょう。

もし、このような県や国の姿勢が今後も続けられるとすれば、土浦市民のみならず、湖岸周辺の住民の生活は近い将来において、破綻に類することは誰の目にも明らかです。

茨城県並びに国は、今回のアンケート調査の結果をふまえて、これまでの水行政を根本的に改める必要があるといえるでしょう。

霞ヶ浦水質汚濁に関する 公開質問状とその回答

土浦の自然を守る会では、去る十月一日より十一月十五日まで、土浦市民の飲料水に関するアンケート調査を行ってまいりました。その集計報告は別紙に詳述してありますが、ご一読しておわかりの通り市民の飲料水に対する不安は極めて大きく、浄水器を購入したり、湯ざましを作ったりして自衛を計っている外、井戸を掘りたいという人が激増しているのが現状です。しかし、県や国の霞ヶ浦汚染対策は、無きに等しく、市民の大部分は、水行政に対して、深い不信と不安を抱いております。

来夏の霞ヶ浦の水質汚濁は恐らく今年をはるかに上回る惨状を呈するものと推測されますが、貴方が土浦市長に選出された暁には、この問題に、どのように対処されるおつもりなのか、以下の質問に具体的に回答下さるようお願い致します。

質問① 現在茨城県では、神林に下水道終末処理場を建設中ですが、その規模は、わずかに五万五千人の処理能力しかなく、しかも、完成の時期第一期工事は、三